

## 医療法人化を検討するタイミングはいつ？ ～秋は次の申請の計画を立てる時期です。将来を見据えて検討しましょう～

厚生労働省の令和4年4月末時点の医療動態調査によると医科診療所の43.4%、歯科診療所の23.6%は医療法人が経営しており、診療所の開設件数は東京、愛知、大阪などの主要都市を中心に年々増加しています。

「医療法人化すべきかどうか」は院長先生から毎年多くご相談いただいておりますが、個人クリニックの所得が非常に多くなった時や、分院展開の計画があるときなどは、医療法人化を検討するタイミングです。1年間の収支予想が判明する秋以降に、翌年の計画を立ててみてはいかがでしょうか。

医療法人設立の申請はいつでもできるわけではありません。医療法人を設立するためには、都道府県知事による『認可』が必要となります。申請時期は都道府県にもよりますが、年2～3回しかありません。かなり多くの資料を提出することとなりますので早めに準備する必要があります。また申請スケジュールや書類提出方法等も各都道府県により異なりますので事前の確認や準備が必要です。

検討するにあたり、まずは医療法人のメリット・デメリットを整理しておきましょう。

### メリット

- ・実効税負担の軽減(法人税と所得税)
- ・役員(親族)に対する所得分散
- ・社会的信用が高まる
- ・決算期が選べる
- ・分院や介護施設等の併設が出来る
- ・事業承継の手続きが比較的スムーズに行える
- ・個人と法人の財産・債務をきちんと区別できる

### デメリット

- ・資金の自由がきかない
- ・社会保険の加入が義務となる
- ・法人が赤字でも納税がある(均等割)
- ・移転や分院、名称変更は定款変更となるので都道府県に事前報告し、認可を得る必要がある
- ・理事長、理事の報酬は年に1度の変更が基本
- ・個人時代の運転資金としての借入金の引き継ぎが不可
- ・解散清算の場合は残余財産が国・地方公共団体に帰属

### 【法人設立時にあたりまず決めて頂きたいこと】

- ・医療法人名(医療法人社団〇〇会 医療法人〇〇が多い)
- ・役員就任予定者(理事長1名 理事2名 監事1名 理事の未成年者は不可、監事は親族及び取引先は不可)

### 【法人設立時にあたり用意して頂きたい資料】

- ・確定申告書2期分
- ・直近の月次試算表
- ・来患者資料(1年間)
- ・開設時保健所提出資料一式
- ・賃貸借契約書、リース契約書
- ・理事長、理事、監事の履歴書
- ・その他

よくご質問をいただきますが、申請は院長先生ご自身で行うことも可能です。しかしながら、100ページ以上にもわたる申請書のご準備や行政との手続き、やり取りを含めると、スピーディ且つ確実に移行を行うためには専門家へご依頼されることをおすすめいたします。

「経営が安定してからの申請」はポイントのひとつとなります。例えば開設から1年に満たない期間で医療法人の申請をしても、受理されることは基本的に難しくなります。経営基盤を整え、将来の税金や後継者のことも考慮に入れて、検討されるとよいでしょう。

## 歯科医院受付業務のDX化とは？

歯科医院の受付は、医療サービスにおける重要な入り口であり、患者さんと一番コンタクトを取るポジションです。数年前までは、受付のホスピタリーが重要視され、マナー研修やセミナーが盛んに実施されていました。しかし、新型コロナウイルス蔓延後の現在は、受付業務におけるやり方や価値観も変化しました。すでに大病院ではコロナ以前から、様々なデジタル化が進んでいましたが、極端に言うとう受付スタッフと患者さんは「デジタル情報を共有」し、「非接触」で様々なことを完結します。一番重要な治療のみをドクターに直接託します。

今後は歯科医院もデジタル情報の共有、非接触型業務、つまり「受付のDX化」が益々必要になってくると思われます。DX化とは環境や価値観の変化に対応し、データとデジタル技術を活用して社会や顧客のニーズをもとに業務そのものを変革することです。歯科医院の受付もその定義に基づいて積極的にDX化を進めていきましょう。受付における主なデジタル化の一部を紹介します。



- ① 電話着信と同時に患者さんの名前や予約情報が把握できるCTIシステム
- ② クラウド型レジシステムで会計と様々な集計表作成が可能（スマレジ、エアレジ等）
- ③ キャッシュレス会計を推進できる自動精算機
- ④ スマホやPCでつながるデジタル予約管理ソフト
- ⑤ Web問診表（スマホやPCで事前に登録完了）
- ⑥ デジタル診察券で来院登録（ICカード・スマホアプリ・顔認証）
- ⑦ クラウド型レセコン（訪問診療時タブレットで入力可）とオンライン請求
- ⑧ オンライン資格確認システム（マイナンバーカードで薬剤、特定検診情報の閲覧）
- ⑨ LINEで患者さんと双方向通信（スマホで24時間予約可能）
- ⑩ LINE WORK等で社員間のミーティングや情報共有（休日社員も確認可）
- ⑪ オンライン診療システム（遠隔で問診）
- ⑫ 待合室のサイネージモニターで各種お知らせ、予防啓蒙や治療情報提供
- ⑬ モニターで診療開始の順番、会計の順番を表示
- ⑭ 通話録音装置でクレームや迷惑電話対応（NTTトビラフォン等）
- ⑮ 防犯カメラシステム（受付・待合室・診療室内）
- ⑯ ビジネス用複合コピー機（A3）で様々な掲示用印刷物等に対応
- ⑰ おくすり手帳アプリで薬局と連携（スムーズなクスリの受取りと履歴確認）

DX化を推進するためには様々なデジタル機器が必要になってきます。上記に挙げた機器やシステムを導入するためにはお金と時間が必要です。また専門的な知識も然りで、それぞれの事業者やベンダーに依頼することになります。優先順位を整理して、必要なものから順番に時間をかけて段階的に構築していく必要があります。そのためにも今後の人材採用においては、受付にデジタルに精通しているリーダーを配置することも考えなければなりません。数年後はDX化が進んだ医療機関と、そうでない医療機関との差が広がると考えられます。

益々厳しくなるであろう医院経営で生き残るために、DX化が社会の潮流であり社会のニーズであれば、それに従う方が賢明です。しかし、これらはあくまでも経営者である院長の裁量に委ねられます。経営とはまさに「意思決定」です。近い将来、受付のいない歯科医院がいずれ誕生するかもしれません。

TH Picks for Doctorは、医師のお役に立つような医業経営情報をお届けいたします。  
2022年9月より発行開始しました。今後ともよろしくお願いたします。

<https://www.ht-hms.co.jp>

本郷メディカルソリューションズ

〒160-0022 東京都新宿区新宿 4-1-6 JR 新宿ミライナタワー 28 階

【お問い合わせ】 ☎ 0120-016-705 (受付時間) 9:00~17:30  
※ 土日・祝日・年末年始除く

TH Picks For Doctor 2022.9 月号

発行日：2022年9月1日

発行元：本郷メディカルソリューションズ株式会社

